

十三年十二月二十三日

第五拾六號

本年四月第拾貳號布告集會條例第六條一左ノ通但書追加候條此旨布告候事

但本條ノ解散ヲ命シタル時ハ其情狀ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官其結社ヲ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於テ壹箇年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事ヲ講談論議スルコトヲ禁スルヲ得ヘシ

内務省伺 十三年十月十日

明治十一年第貳拾九號ヲ以國事政体ヲ談論シ民心煽動國安妨害ニ涉ルト看認ムル第ノ禁止方御達相成候ニ付即其禁止手續等別紙天地第ノ通常省ヨリ相達置候處本年四月第拾貳號ヲ以テ集會條例布告

セラレ候ニ付右第貳拾九號御達ハ自然消滅ニ属シ
候儀ト存シ前段天地御達ハ別紙人衆ノ如ク取消候
然ルニ法制部辨明ニハ第廿九號御達廢止ノ令ナキヲ
以テ消滅ト看做ス可ラストアリ抑第廿九號ハ處分
官ヘノ御達ニシテ普ク布告セシニ非サレハ人民ニ
於テ之ヲ熟知スト云フ得可カラス且ツ其効用モ亦
法律ト同レカラサルモノアルニ似タルヲ以テ往々
疑義ヲ懷キ伺出ル者少ナカラス然リト雖法制部辨
明ノ趣モアレハ談達ハ消滅セサル儀ニ可有之果シ
テ然ラハ其禁下方ヲ更ニ集會條例ヘ追加セラレ候
ハ、一處分ニシテ布告ト御達ノ両令ニ涉ラス且ツ
其事判明ニシテ又疑惑ヲ生スル義モ無之彼此宜
キヲ得ヘクト存候右ハ差找候儀有之候條至急御詮

議相成度別紙御布告按御達按等書類相添此段相同
候也 十三年十月十九日 内務
番外

東京警視本署

集會取締方ニ付警察官心得左ノ通相定候條此旨相
達候事

明治十一年十二月四日 内務卿伊藤博文

第一條

政談講學ヲ目的トシテ衆ヲ集メテ演説若クハ論議
スルノ會場ニハ警察官監臨スヘシ

第二條

會場ニ監臨スル警察官吏ハ演説若クハ論議ノ要旨
ヲ聞取ルヲ要ス其匪法ノ集會ニ非ナル者ハ要リニ

箝制シテ人民ノ交際ヲ妨クベカラス

第三條

届書ヲ出サスレテ集會ヲナシ其隱密ノ後黨タルノ証跡ヲ得ルハ警察官吏ハ直チニ會場ヲ停止シテ長官ニ具狀スヘシ

第四條

集會ノ演説論議國安ヲ妨害スルハ警察官吏ハ直チニ會場ヲ停止シテ長官ニ具狀スヘシ

第五條

警察官吏受取ル所ノ届書其趣意法ニ乖キ及ヒ國安ヲ妨害スヘク又届書ノ主名中以前集會ノ禁止ヲ受ケ若クハ停止中ニ在ル人負アルハ其集會ヲ停止シテ長官ニ具狀スベシ

第六條

警察長官ハ第三條第四條第五條ノ具狀ヲ得ルハ其犯狀ニ從ヒ本年第貳拾九號達ニ依リ禁止ノ命ヲ下スヘシ其刑法ニ觸ル者ハ法司ニ付シ處分ヲ取ルヘシ

第七條

集會ノ國安ヲ妨害スル者ト認ム可キモノハ左ノ如シ
演説又ハ文書又ハ其他ノ方法ヲ以テ人民ヲ教唆煽動シテ國法ヲ惡忌セシメ或ハ官吏ヲ疾視セシメ或ハ政府ヲ惡望セシムル事

秘密ノ誓約

強訴ノ企

嘯聚等ノ類

番外

今般番外ヲ以テ集會取締方警察官心得相達候ニ付
其廳ニ於テ左ノケ條管下ヘ布達スヘク此旨相達候
事

明治十一年十二月四日

内務卿伊藤博文

第一條

凡改談講學ヲ目的トシ衆ヲ集メテ演說若クハ論議
スル者ハ豫メ會主及會員三人以上ノ連名ヲ以テ届
書ヲ出ス可シ

但定日時ナキモノハ開會ノ日ヨリ少クモ三日前
ニ届書ヲ出スヘシ

第二條

届書ニハ會合ノ趣意場所及ヒ定日時又ハ定日時ナ
キ事及ヒ會主ト會員三人以上ノ住所屬族姓名ヲ明
細ニ記載スヘシ

番外

府縣東京府

這回集會條例御發行ニ付テハ該條例ニ觸レ警察官
ニ於テ處分セシムル罰科ニ處セラレタル事共其時
々事由詳細當省ヘ可届出此旨相達候事

年月日

内務卿

番外

府縣東京府

這回集會條例御發行ニ付明治十一年十二月四日當
省番外達集會取締方警察官心得廢止候條右ニ付其

廳ニ於テ管下ノ布達候儀ニ廢止致スヘク此旨相達候事

内務卿

元老院へ達

集會條例第六條へ但書追加布告按
右其院檢視ニ被付候事 十三年十二月十四日

同院上申

本月十四日下付有之候集會條例第六條へ但書追加布告按今廿日本院ノ檢視ヲ經過シ本按致奉還候條御上奏有之度候也 十三年十二月廿日

同院上奏

本月十四日本院ノ檢視ニ付セラレシ所ノ集會條例第六條へ但書追加布告按今二十日檢視ヲ經過ス仍

内務省へツケ

ヲ本按ヲ奉還シテ謹テ之ヲ上奏ス 十三年十二月廿日

法制部議按 十三年十月廿九日

別紙内務省同十一年第貳拾九號達ノ旨趣ヲ以テ集會條例第六條ニ但書追加ノ儀ハ同省ノ稟議至當ト存候ニ付内務部へ協議ノ上左按取調仰高裁候也 十三年十一月二十九日
内務省へ通牒